

ideaflow(アイデアフロー) 詳細調査レポート

OpenAI Deep Research

1. ideaflow の概要

ideaflow(アイデアフロー)は、株式会社知財図鑑が提供する知財×AIによるアイデア共創プラットフォームです。公開特許情報をもとに、その技術を活用した未来志向の事業アイデアを大量かつ瞬時に生み出す Web サービスとして 2024 年 6 月にベータ版が発表されました ([知財図鑑が AI を使ったアイデア共創プラットフォーム「ideaflow」を発表 | 株式会社知財図鑑のプレスリリース](#))。生成 AI(大規模言語モデル)を活用して難解な特許内容をわかりやすく要約し、新規事業のアイデア創出(アイディエーション)までを自動化します ([知財図鑑が AI を使ったアイデア共創プラットフォーム「ideaflow」を発表 | 株式会社知財図鑑のプレスリリース](#))。専用ソフトのインストール不要で Web ブラウザ上で操作可能であり、企業規模や担当者のスキルに関係なく導入後すぐに新規事業創出に活用できる手軽さも特徴です ([知財図鑑が AI を使ったアイデア共創プラットフォーム「ideaflow」を発表 | 株式会社知財図鑑のプレスリリース](#))。開発背景には、日本国内で毎年約 30 万件以上出願される特許の半数近くが事業活用されず眠っている現状への問題意識があります ([知財図鑑が AI を使ったアイデア共創プラットフォーム「ideaflow」を発表 | 株式会社知財図鑑のプレスリリース](#))。知財図鑑の共同代表・荒井亮氏は「知財という先端技術を AI の力で翻訳し発信することで、誰もが未知の技術にアクセスできるようになる。AI と人が共創することで、知財部門や研究者ですら思いつかなかった活用方法を大量に想像できる」と述べており、休眠特許の掘り起こしや技術移転を通じたオープンイノベーションの連鎖で日本の新たな経済成長に寄与することを期待しています ([知財図鑑が AI を使ったアイデア共創プラットフォーム「ideaflow」を発表 | 株式会社知財図鑑のプレスリリース](#))。こうした理念のもと、知財図鑑が培ってきた「知財を起点に未来を妄想する」手法に AI を組み合わせる形で ideaflow は開発されました。

([アイデア共創プラットフォーム「ideaflow」無料版を一般公開、誰でも無料で知財×AIでのアイデア作成が可能に | 知財図鑑](#)) ideaflow のプラットフォーム画面例。ブラウザ上でチームごとのアイデアが一覧表示され、各アイデアには AI が自動生成したサムネイル画像とタイトル・概要が示される。直感的な UI で「特許一覧」や「アイデアを作る」機能にアクセスでき、チーム内での「いいね」やコメントによるフィードバックも可能となっている。

2. 主な機能

ideaflow は特許情報と生成 AI を組み合わせた様々な機能を備え、ユーザーと AI の共創によってアイデア創出プロセスを支援します。主な機能は以下のとおりです。

- **特許の要約:** 公開特許の番号を入力すると、ChatGPT をはじめとする AI が瞬時に特許内容をわかりやすく要約します ([知財図鑑が AI を使ったアイデア共創プラットフォーム「ideaflow」を発表 | 株式会社知財図鑑のプレスリリース](#))。専門知識がなくても難解な特許文献のポイントを把握でき、AI と人間が共創して事業アイデアを生み出すための土台となります ([知財図鑑が AI を使ったアイデア共創プラットフォーム「ideaflow」を発表 | 株式会社知財図鑑のプレスリリース](#))。
- **事業アイデアの提案:** 特許情報に加えて検討したい産業分野やテーマを指定すると、AI がその技術の応用として考えられる未来の事業アイデアを生成します ([知財図鑑が AI を使ったアイデア共創プラットフォーム「ideaflow」を発表 | 株式会社知財図鑑のプレスリリース](#))。飛躍的で斬新な発想から実現性の高いアイデアまで幅広く方向性を提示し、ユーザーの期待値に合わせたアイディエーションが可能です ([知財図鑑が AI を使ったアイデア共創プラットフォーム「ideaflow」を発表 | 株式会社知財図鑑のプレスリリース](#))。
- **事業アイデアの可視化:** 生成されたアイデアはタイトルや概要だけでなく、「価値提案・ターゲット顧客・長所(強み)・短所(課題)・リスク」といった多角的観点で自動記述されます ([知財図鑑が AI を使ったアイデア共創プラットフォーム「ideaflow」を発表 | 株式会社知財図鑑のプレスリリース](#))。さらに AI がそのアイデアの**新規性・市場性・実現可能性**を自己評価してスコア表示し、コンセプトの優位性を定性的に判断できます ([知財図鑑が AI を使ったアイデア共創プラットフォーム「ideaflow」を発表 | 株式会社知財図鑑のプレスリリース](#))。併せて、利用シーンを想起させる**ビジュアルイメージ**も AI が同時生成し、アイデア具体化のイメージ共有に役立ちます ([知財図鑑が AI を使ったアイデア共創プラットフォーム「ideaflow」を発表 | 株式会社知財図鑑のプレスリリース](#))。
- **部門を超えたコラボレーション:** 作成したアイデアは基本的に同じチーム内のメンバーだけに共有されます。チームメンバーはアイデアに対して「いいね」で反応したりコメントを書き込んだりでき、部署の壁を超えた自由な議論をオンライン上で展開可能です ([知財図鑑が AI を使ったアイデア共創プラットフォーム「ideaflow」を発表 | 株式会社知財図鑑のプレスリリース](#))。研究開発部門の技術シーズと事業企画部門の視点を繋げるなど、社内コラボを促進する仕組みになっています。必要に応じてアイデアを更新・修正しながら、チームでブラッシュアップしていくことができます。

- **AI エージェントとの対話(チャット)機能:** 作成した事業アイデアをさらに発展させたい場合、AI エージェントとチャットボット形式で対話しながらアイデアを深堀りできます ([知財×AI で新規事業創出を加速する「ideaflow」を、世界最大級のテクノロジー見本市「CES 2025」に出展します | 知財図鑑](#))。例えば「このアイデアのリスクは?」「他に応用できる分野は?」「協業すべきパートナーは?」といった追加の質問を投げかけると、AI が自然言語で回答し、リスク分析・活用シーンのブレスト・検証プロセスのアドバイス等の高度な示唆を与えてくれます ([知財×AI で新規事業創出を加速する「ideaflow」を、世界最大級のテクノロジー見本市「CES 2025」に出展します | 知財図鑑](#))。用意された質問文だけでなく自由入力も可能で、対話内容はスレッドごとに保存され後から参照することもできます ([アイデア共創プラットフォーム「ideaflow」無料版を一般公開、誰でも無料で知財×AI でのアイデア作成が可能に | 知財図鑑](#))。(※なおこの対話 AI は、ベータ版発表時には「戦略コンサルタントとの壁打ち」「SF 作家とのブレスト」といった個性を持たせる計画が示されていました ([知財図鑑が AI を使ったアイデア共創プラットフォーム「ideaflow」を発表 | 株式会社知財図鑑のプレスリリース](#))。製品版では汎用的なチャット機能として実装されています。)
- **アイデアの公開・共有:** 2025 年 2 月の製品版リリース以降、ユーザーは生成したアイデアをプラットフォーム上で一般公開できるようになりました ([アイデア共創プラットフォーム「ideaflow」無料版を一般公開、誰でも無料で知財×AI でのアイデア作成が可能に | 知財図鑑](#))。通常はチーム内限定のアイデアですが、公開オプションを選ぶと世界中のユーザーに共有され、他ユーザーが閲覧可能な状態になります ([アイデア共創プラットフォーム「ideaflow」無料版を一般公開、誰でも無料で知財×AI でのアイデア作成が可能に | 知財図鑑](#))。プラットフォームのトップページでは毎月のトレンドや社会課題などテーマに沿った「特集」コーナーが設けられ、公開アイデアの中から注目テーマ別にピックアップ表示される仕掛けもあります ([アイデア共創プラットフォーム「ideaflow」無料版を一般公開、誰でも無料で知財×AI でのアイデア作成が可能に | 知財図鑑](#))。このように社外との共創や知見共有を促し、知財とアイデアのマッチングを活性化する狙いがあります ([アイデア共創プラットフォーム「ideaflow」無料版を一般公開、誰でも無料で知財×AI でのアイデア作成が可能に | 知財図鑑](#))。
- **マルチリンガル対応:** 当初日本語版として開発された ideaflow ですが、英語 UI・英語生成機能にも対応しました ([知財×AI で新規事業創出を加速する「ideaflow」を、世界最大級のテクノロジー見本市「CES 2025」に出展します | 知財図鑑](#))。ボタン一つで表示言語を英語に切り替えられるほか、英語での特許要約やアイデア生成も可能となっており、グローバル企業や海外拠点のメンバーとも円滑に共同作業ができます ([知財×AI で新規事業創出を加速する「ideaflow」](#))

[を、世界最大級のテクノロジー見本市「CES 2025」に出展します | 知財図鑑](#)。1つのチーム内で日本語・英語それぞれの言語でアイデアを創出・閲覧できるため、言語の壁を意識せず国際的なオープンイノベーション環境を実現しています([知財×AIで新規事業創出を加速する「ideaflow」を、世界最大級のテクノロジー見本市「CES 2025」に出展します | 知財図鑑](#))。

3. 料金プランと提供形態

ベータ版期間(2024年)は法人(企業・大学)向けのクローズド提供で、利用希望企業に対して個別に試験利用が許可されていました([知財図鑑がAIを使ったアイデア共創プラットフォーム「ideaflow」を発表 | 株式会社知財図鑑のプレスリリース](#))([知財図鑑がAIを使ったアイデア共創プラットフォーム「ideaflow」を発表 | 株式会社知財図鑑のプレスリリース](#))。個人ユーザー向けの提供は予定段階でしたが、反響の大きさを受けて2025年2月27日に製品版をリリースし、一般公開のWebサービスへと移行しました([アイデア共創プラットフォーム「ideaflow」無料版を一般公開、誰でも無料で知財×AIでのアイデア作成が可能に | 知財図鑑](#))。現在提供されている主なプランは以下のとおりです。

- **Free(無料)プラン:** アカウント登録をすれば誰でも利用可能な無料プランです([アイデア共創プラットフォーム「ideaflow」無料版を一般公開、誰でも無料で知財×AIでのアイデア作成が可能に | 知財図鑑](#))。毎月10件までのアイデア生成が可能(年間120件まで)で、個人や小規模チームでも負担なく利用できます([アイデア共創プラットフォーム「ideaflow」無料版を一般公開、誰でも無料で知財×AIでのアイデア作成が可能に | 知財図鑑](#))。無料プランで作成したアイデアはデフォルトで他ユーザーも閲覧できる公開設定となり、トップページ上で共有されることで知財とアイデアのマッチング促進に活用されます([アイデア共創プラットフォーム「ideaflow」無料版を一般公開、誰でも無料で知財×AIでのアイデア作成が可能に | 知財図鑑](#))。
- **Pro(有料)プラン:** 主に法人向けの有料サブスクリプションプランです([アイデア共創プラットフォーム「ideaflow」無料版を一般公開、誰でも無料で知財×AIでのアイデア作成が可能に | 知財図鑑](#))。無料版に比べ、月間のアイデア作成数や参加できるチームメンバー数の上限が拡充された形で提供されます([アイデア共創プラットフォーム「ideaflow」無料版を一般公開、誰でも無料で知財×AIでのアイデア作成が可能に | 知財図鑑](#))。価格は公式サイト上で明示されていませんが、ニーズに応じた料金設定となっている模様です(※大企業向けに複数社で正式導入が進んでいるとの言及あり)

[「ideaflow」を、世界最大級のテクノロジー見本市「CES 2025」に出展します | 知財図鑑](#))。Pro プランには 7 日間の無料トライアル期間も用意されており、まず試用してから本格導入を判断することが可能です ([アイデア共創プラットフォーム「ideaflow」無料版を一般公開、誰でも無料で知財×AIでのアイデア作成が可能に | 知財図鑑](#))。

- **Enterprise プラン:** 大企業や大学・研究機関向けのカスタマイズ可能なプランです ([アイデア共創プラットフォーム「ideaflow」無料版を一般公開、誰でも無料で知財×AIでのアイデア作成が可能に | 知財図鑑](#))。全社展開や大規模チームでの利用、独自機能の追加要望などに対応するためのエンタープライズ向け契約となります ([アイデア共創プラットフォーム「ideaflow」無料版を一般公開、誰でも無料で知財×AIでのアイデア作成が可能に | 知財図鑑](#))。具体的な内容は個別相談となりますが、本格的に活用したい企業や大学にはこちらが提供されています ([アイデア共創プラットフォーム「ideaflow」無料版を一般公開、誰でも無料で知財×AIでのアイデア作成が可能に | 知財図鑑](#))。Enterprise プランや各種ワークショップ導入については、知財図鑑に直接問い合わせることで見積もり・提案を受ける形です。

なお、製品版リリース直前にはウェイトングリストで事前登録を募るなど段階的に展開され、無料版公開後は誰でも公式サイト(idea-flow.ai)からプラン登録できるようになっています ([知財×AIで新規事業創出を加速する「ideaflow」を、世界最大級のテクノロジー見本市「CES 2025」に出展します | 知財図鑑](#)) ([知財×AIで新規事業創出を加速する「ideaflow」を、世界最大級のテクノロジー見本市「CES 2025」に出展します | 知財図鑑](#))。無料プランから開始し、必要に応じて Pro/Enterprise へアップグレードするモデルで、多様なユーザー層(個人研究者・スタートアップ・中小企業から大企業まで)に対応しています ([知財×AIで新規事業創出を加速する「ideaflow」を、世界最大級のテクノロジー見本市「CES 2025」に出展します | 知財図鑑](#))。

4. 導入事例・活用例

ideaflow は新規事業開発やオープンイノベーションを支援するツールとして様々な組織に採用・活用され始めています。2024 年 6 月の発表以降、500 社を超える企業の新規事業部門や知財部門から問い合わせがあり、製造業メーカー・ゲーム会社・スタートアップ・コンサルティングファームなどで複数社が正式導入を進めています ([知財×AIで新規事業創出を加速する「ideaflow」を、世界最大級のテクノロジー見本市「CES 2025」に出展します | 知財図鑑](#)) (

[級のテクノロジー見本市「CES 2025」に出展します | 知財図鑑](#))。以下に主な活用例を挙げます。

- **大手企業(ゲーム業界・製造業など)**: 株式会社カプコン(ゲーム開発大手)では知的財産部門が先行利用し、「ideaflow の優れた点は、人間では躊躇してしまうような異質な価値観のアイデアも羞恥心なくアウトプットして新しい未来像(夢)を提示してくれること。AIによる突飛な妄想アイデアを起点に人が議論を重ねることで、企業の成長や社会課題に向き合うきっかけになる」と評価しています([知財図鑑が AI を使ったアイデア共創プラットフォーム「ideaflow」を発表 | 株式会社知財図鑑のプレスリリース](#))。Pixie Dust Technologies(先端テクノロジー系スタートアップ)でも「ideaflow はアイデア創出のハードルを下げ、誰でも簡単・高速にアイデアを生み出せる設計思想になっている。新規事業のサイクル高速化に寄与し、スピード命のスタートアップの成功率を高めてくれる」と期待を寄せています([知財図鑑が AI を使ったアイデア共創プラットフォーム「ideaflow」を発表 | 株式会社知財図鑑のプレスリリース](#))。これら大手・新興企業では、新規事業企画のブレストや将来ビジョン検討に ideaflow が役立てられています。
- **官公庁・自治体との取り組み**: 特許庁が主催するオープンイノベーション推進プロジェクト「I-OPEN」において、宮城県(テクノロジー系施策)との協業で ideaflow を活用したアイデア創出ワークショップが実施されています([知財図鑑が AI を使ったアイデア共創プラットフォーム「ideaflow」を発表 | 株式会社知財図鑑のプレスリリース](#))。また神奈川大学や石川県発明協会、アズビル株式会社(大手計測機器メーカー)などとの共催で、地域企業・大学研究者らが参加する現地アイデア創出ワークショップも開催されています([知財図鑑が AI を使ったアイデア共創プラットフォーム「ideaflow」を発表 | 株式会社知財図鑑のプレスリリース](#))([特許×AI でビジネスアイデアを創出する「ideaflow」の限定ワークショップを 11/25 に石川県で開催、参加企業を募集 | 知財図鑑](#))。参加者自身が自社保有の特許技術や関心テーマを題材に AI と共創し、新規事業の種を短時間で多数生み出す体験が提供されています。これらワークショップは有償サービスとして提供され、内容は要望に応じカスタマイズ可能とのことです([知財図鑑が AI を使ったアイデア共創プラットフォーム「ideaflow」を発表 | 株式会社知財図鑑のプレスリリース](#))。
- **大阪・関西万博(2025 年)での採用**: 住友グループが大阪・関西万博の企業パビリオン「住友館」にて展開する共創プロジェクト「ミライのタネ」に、ideaflow のシステムが技術提供されています([知財図鑑が ideaflow を大阪・関西万博住友館に提供、AI を活用した未来のアイデア創出プラットフォームを実現 - / XEXEQ\(ゼゼック\)](#))。住友グループ各社が保有する 700 件以上の先端技術データ

をデータベース化し、来場者が [ideaflow\(カスタマイズ版\)](#) を通じてそれら技術の未来のアイデアを次々に創出・閲覧できる仕組みです ([知財図鑑が ideaflow を大阪・関西万博住友館に提供、AIを活用した未来のアイデア創出プラットフォームを実現 - / XEXEQ\(ゼゼック\)](#))。生成 AI が技術と社会課題からアイデアを導くことで、世界中の万博来場者が参加可能な共創プラットフォームを実現しています ([知財図鑑が ideaflow を大阪・関西万博住友館に提供、AIを活用した未来のアイデア創出プラットフォームを実現 - / XEXEQ\(ゼゼック\)](#)) ([知財図鑑が ideaflow を大阪・関西万博住友館に提供、AIを活用した未来のアイデア創出プラットフォームを実現 - / XEXEQ\(ゼゼック\)](#))。このプロジェクトにはクリエイティブ集団の Konel やテクノロジー企業のワントゥーテンも開発協力しており、ideaflow の技術が大規模イベントでのオープンイノベーションにも応用されたケースと言えます。

そのほか、2025 年 1 月にはアメリカ・ラスベガス開催の「CES 2025」(世界最大級のテクノロジー見本市)に JETRO 選抜のスタートアップとして ideaflow が出展され、海外企業・投資家向けにアピールされました ([知財×AIで新規事業創出を加速する「ideaflow」を、世界最大級のテクノロジー見本市「CES 2025」に出展します | 知財図鑑](#))。このような場で国際的にも注目を集め始めており、今後導入企業の具体的な新規事業事例が増えてくることが期待されています。

5. 今後の展望

ideaflow は今後さらに機能拡充とユーザー層の拡大が見込まれています。2025 年 2 月に無料プランを含む一般公開版がリリースされたことで、**個人研究者やスタートアップ、中小企業も含めた幅広いユーザー**が知財×AIを活用してアイデア創出に取り組める環境が整いました ([知財×AIで新規事業創出を加速する「ideaflow」を、世界最大級のテクノロジー見本市「CES 2025」に出展します | 知財図鑑](#))。公式発表によれば、既に複数社で本格導入が進む中で大学・自治体とのワークショップも活発に実施されており、**アイデア創出における AI 活用の有用性が認知されつつあります** ([知財×AIで新規事業創出を加速する「ideaflow」を、世界最大級のテクノロジー見本市「CES 2025」に出展します | 知財図鑑](#))。そうした反響を受けて個人向け無料版公開に踏み切った経緯があり、今後は日本国内のみならずグローバル市場も視野に入れて展開していく方針です。実際、2025 年 1 月の CES 出展では**最新機能を搭載した ideaflow を披露し、海外の企業・行政機関・投資家に向けて日本発のソリューションの魅力をアピール**しました ([知財×AIで新規事業創出を加速する「ideaflow」を、世界最大級のテクノロジー見本市「CES 2025」に出展します | 知財図鑑](#)) (

[世界最大級のテクノロジー見本市「CES 2025」に出展します | 知財図鑑](#))。この出展を通じて事業提携や開発パートナー獲得につなげ、より多くのビジネスパーソンに ideaflow を活用してもらうことで新規事業創出の促進に寄与していくとしています ([知財×AIで新規事業創出を加速する「ideaflow」を、世界最大級のテクノロジー見本市「CES 2025」に出展します | 知財図鑑](#)) ([知財×AIで新規事業創出を加速する「ideaflow」を、世界最大級のテクノロジー見本市「CES 2025」に出展します | 知財図鑑](#))。また、製品版リリース時に追加された AI エージェント対話機能や英語対応はその第一歩であり、将来的には他言語対応の拡充や、より高度な発想支援 AI の開発も考えられます。公式には「知財×クリエイティブ×AI」による共創プラットフォームとして、今後も知財データの拡充やユーザー体験の改善を続けていくとされます ([知財×AIで新規事業創出を加速する「ideaflow」を、世界最大級のテクノロジー見本市「CES 2025」に出展します | 知財図鑑](#))。

さらに、知財図鑑は外部との連携にも意欲を示しています。プレスリリースでは「より多くの知財をエンパワーするため」に戦略コンサルタント(ビジネスプラン策定支援)やデザインファーム(ビジュアルコンセプト構築)、技術開発パートナー(プロトタイプング支援)との協業を呼びかけており ([知財図鑑が AI を使ったアイデア共創プラットフォーム「ideaflow」を発表 | 株式会社知財図鑑のプレスリリース](#))、異業種の知見を取り込みながらプラットフォームの価値を高めていく方針が伺えます。加えてサービスの開発・普及を加速させるためにエンジニアや事業開発、人材を積極採用中で、将来的な海外展開も見据えて動いています ([知財図鑑が AI を使ったアイデア共創プラットフォーム「ideaflow」を発表 | 株式会社知財図鑑のプレスリリース](#))。知財図鑑・荒井氏の Note インタビューによれば、AI によるトランスフォーメーション (AX) が進む社会において、膨大な知財が眠ったままではもったいない、との強い思いがあるといいます ([知財図鑑が AI を使ったアイデア共創プラットフォーム「ideaflow」を発表 | 株式会社知財図鑑のプレスリリース](#))。今後 ideaflow は、企業内の新規事業文化の醸成や、産学官連携によるイノベーション創出のプラットフォームとして進化し続けることでしょう。知財と AI の融合によって「未来をつくる手段」を誰もが得られる世界を目指し、公式発表やインタビューではその将来像への意気込みが度々語られています。

Sources: 信頼性の高い公式情報(知財図鑑 公式サイトのニュースリリースやサービス紹介ページ、プレスリリース、導入企業の声など)を参照し、上記内容をまとめました。
([知財図鑑が AI を使ったアイデア共創プラットフォーム「ideaflow」を発表 | 株式会社知財図鑑のプレスリリース](#)) ([知財図鑑が AI を使ったアイデア共創プラットフォーム「ideaflow」を発表 | 株式会社知財図鑑のプレスリリース](#)) ([知財図鑑が AI を使ったアイデア共創プラットフォーム「ideaflow」を発表 | 株式会社知財図鑑のプレスリリース](#)) ([知財図鑑が AI を使ったアイデア共創プラットフォーム「ideaflow」を発表 | 株式会社知財図鑑のプレスリリース](#)) ([知財図鑑が AI を使ったアイデア共創プラットフォーム「ideaflow」を発表 | 株式会社知財図鑑のプレスリリース](#))

[鑑のプレスリリース](#)) ([アイデア共創プラットフォーム「ideaflow」無料版を一般公開、誰でも無料で知財×AIでのアイデア作成が可能に | 知財図鑑](#)) ([知財×AIで新規事業創出を加速する「ideaflow」を、世界最大級のテクノロジー見本市「CES 2025」に出展します | 知財図鑑](#)) ([アイデア共創プラットフォーム「ideaflow」無料版を一般公開、誰でも無料で知財×AIでのアイデア作成が可能に | 知財図鑑](#)) ([知財図鑑が AI を使ったアイデア共創プラットフォーム「ideaflow」を発表 | 株式会社知財図鑑のプレスリリース](#)) ([知財図鑑が AI を使ったアイデア共創プラットフォーム「ideaflow」を発表 | 株式会社知財図鑑のプレスリリース](#)) ([知財図鑑が ideaflow を大阪・関西万博住友館に提供、AIを活用した未来のアイデア創出プラットフォームを実現 - / XEXEQ\(ゼゼック\)](#)) ([知財×AIで新規事業創出を加速する「ideaflow」を、世界最大級のテクノロジー見本市「CES 2025」に出展します | 知財図鑑](#)) ([知財図鑑が AI を使ったアイデア共創プラットフォーム「ideaflow」を発表 | 株式会社知財図鑑のプレスリリース](#))など各所に引用を示しています。各リンク先では ideaflow の詳細な機能紹介や事例が掲載されています。